

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗佛國山寶土寺住職
禹 法顯さん

第30回

私の父はもともと韓国で日蓮宗の熱心な信徒でした。その後、父は日蓮宗に改宗し、私は信仰を身近に感じて育ちました。

韓国の大学で1年生までを過ごした後、2年半の兵役に。復学して2年生を終えたとき、父から「日蓮宗の教えは良い。私はもう年だから、お前が日本に行つて日蓮宗の勉強をしてきなさい」と言われました。韓国人は「親の言うことには従おう」という思いが強い国民性です。私も素直に「では行つてみよう」と思い、日本の立正大学に留学しました。

日蓮宗の学寮に入りましたが、私は日本語がまったくわからないまま留学したので、食事やトイレなど、生活す

らままならない状態。周囲のみんながやさしく教えてくれたので、言葉については3か月ほどで何となく聞き取れるようになりましたが、本当に大変でした。

正座もできないし、お経も読めない。入寮して1、2週間で体重が10kg落ち、髪の毛がボロボロ抜けけるほどのストレスに。そんな中でお題目を唱えているうちに、「お釈迦様はわかってくださる」と思えるようになりました。これこそが「仏縁」なのだと思います。

水行と読経三昧の「百日大荒行」を乗り越えて

日蓮宗には、世界三大荒行の一つにも数えられる「百日大荒行」があります。早朝3時から夜11時まで1日7回水をかぶり、その間は「ずつとお経を唱える。食事は朝夕2回、粥と薄い味噌汁だけ……」そんな修行に厳寒11月、2月の1、2日間、耐え続けるのです。

1999年、私はこの大荒行に初めて参加しました。「荒行とは何だろう」と思い行に入りましたが、正直言うとうすぐに後悔しました(笑)。いくら頭で厳しいとわか



ここ40年間、外国人で大荒行を成満したのは禹さんが初めて。荒行を終えた2月10日には大祈禱会で水行を披露した。

ついても、経験するのとはまったく違います。初行のときは3日だけ逃げ出そうとしたほどです。寒さは体が慣れていきます。空腹も次第に胃が小さくなるので耐えられる。一番辛いのは「眠気です。2、3日間、1日2時間くらいしか寝ていないのですから、頭がボーッとします。荒行を終えてからの2、3か月は、何をしたらか覚えていないほどなのです。

韓国の信徒さんのためにこの経験を生かしたい

私は今年、4回目の大荒行を成満しました。1回目とはいえない辛い修行に変わりありません。今回も1、2日間、20kgやせました。

それでも参加するのは、修行は自分のためではなく、信徒さんたちのためでもあると思うからです。荒行を通して少しでも成長した私の姿を信徒さんに見せることで、信徒さんが新たな信徒さんと呼んでくれる。これも仏縁です。多くの人に自分が経験したものを伝えたい。お題目を唱えることで自分を変えられるということ伝えていきたいと思っています。

厳しい修行を耐え抜いて 成長する姿を伝えたい

うー・ほーけん 1970年、韓国・釜山生まれ。韓国の大学に在学中に2年半の兵役に。復学後の1994年、立正大学仏教学部へ留学。1998年に立正大学を卒業後、千葉県松戸市の本土寺にて修行。1999年3月に韓国に戻り、布教活動を始める。2005年10月、廣州市に寶土寺を建立。その間、日蓮宗百日大荒行を4回成満する。ブログ<http://blog.naver.com/botosa>